

4歳児の取り組んだヒマワリについて

4歳児担当 大川 裕美

4月の下旬にハツカダイコンの種を植えました。1人1粒ずつ植えましたが、クラスで1つのプランターだったために世話をしない子どももいました。そのため、個人のヒマワリを植え、植物を育てていく中で生命の大切さや神様がくださる自然の恵みに感謝する心を持ってほしいという願いから、ヒマワリを育てていくことにしました。

育てていく中で、A児のヒマワリだけ育ちが悪く、なかなか芽が出てきませんでした。子ども達と植えたところを掘ってみると、深く植えすぎていることがわかり、みんなで考えた結果、新しい種を植えることにしました。その後、A児は周りのヒマワリと比べて生長が遅いことで、ヒマワリの様子さえ見に行こうとしなくなりました。そこで、年中児の合同での集まりの時に、A児のヒマワリについて取り上げました。小さくても同じヒマワリであることやヒマワリも神様の光をうけて、頑張っていることを伝えました。その頃から、A児は友達と見に行ったり、世話をしたりするようになりました。

夏期保育の1日目。A児が一番に「先生、ヒマワリにおはようって言いに行こう」と言い、その言葉を聞いて何人かの子どもも一緒に見に行きました。すると、A児のヒマワリと背比べをし「僕よりおおきくなっているよ」と、他の子どもも一緒にA児のヒマワリの生長を喜ぶ姿が見られました。その後、A児のヒマワリは、つぼみをつけました。小さくてもつぼみをつけて花を咲かせようと頑張っているヒマワリの姿を見て、子ども達と植物の生きる力を感じました。そして、神様が生長させてくださっていることに感謝の気持ちを覚え、お祈りをしました。子ども達の中にも友達のヒマワリの生長を喜び合う姿が見られ、思いやりの心が育っていることに嬉しく思いました。

本日の礼拝の中で「カマキリチョンの探険ごっこ」の聖話をしました。子ども達の中で虫を捕まえても、捕まえられたことに満足して終わる姿が見られていました。その姿を受けて、どんなに小さな生物でも神様がくださった生命があり、生き物にとって住みやすい環境があることを子ども達に伝えてきました。

子ども達の心の中で、身近な動植物に対して思いやりの気持ちが育ってきているこの時期にそれらのことを感じられるようにと思い、本日の礼拝の中で話しました。